



「小国高校創立100周年」

11月11日（金）に小国高校創立百周年記念式典が開催され、出席させていただきました。小国高校のこれまでの主な歴史を記すと

- 1922年（大正11年）南小国村・北小国村組合立実科高等女学校として設立
- 1926年（昭和元年）阿蘇北部実科高等女学校として独立
- 1931年（昭和6年）校名を「熊本県小国実科高等女学校」に改称
- 1943年（昭和18年）校名を「熊本県小国高等女学校」に改称
- 1948年（昭和23年）男女共学
- 1951年（昭和26年）熊本県立小国高等学校本校として独立
- 2002年（平成14年）中高一貫教育校（連携型）指定
- 2005年（平成17年）男子ホッケー部全国高校総体優勝
- 2022年（令和4年）創立100周年

式典の開始前には、これまでの歴史を振り返る映像も放映され、百年の時の流れをあらためて感じることができました。設立当初から小国郷の高等学校（設立時は女学校）として、大きな期待を集めて開校されたことが伝わってきました。これまでも多くの卒業生を輩出してきた小国高校ですが、最近では小国町・南小国町からの助成金を活用して、他の県立高校が取り組めていない、生徒一人一台のタブレットや学習用ソフト（生徒の負担金なし）の導入が図られるなど、先進的な取り組みを重ねていらっしゃいます。



【創立時の写真】※式典資料から

記念式典で、姿勢よく整然と並ぶ全校生徒の横顔を眺めながら、これから次の50年、100年に向けてどんな時間が重ねられていくのか期待感しかありませんでした。

「中高一貫芸術鑑賞会」

先週16日（水）に、小国高校・南小国中との「中高一貫芸術鑑賞会」が小国高校体育館で開催されました。この取り組みについては昨年度はコロナ禍により別々の開催でしたので、二年ぶりの合同開催でした。今回の企画は「邦楽」で尺八や三味線、和太鼓、民謡等、日本の音色に接する機会となりました。邦楽は最近では耳にする機会も少なくなりつつありますが、古来から受け継がれてきた伝統の音は、参加した生徒や職員にとって、心にも響く心地よい音色だったようです。この鑑賞会は昨年は「演劇」、一昨年は「落語」でした。そこには、小国中・高での6年間で様々なジャンルの芸術に接することが出来るようにと、三校の担当者（本校担当者は日吉教諭）の工夫があります。来年も期待しててください。



【 かったいいですね 】

「気づき、考え、行動する」

先週のことですが、地域の方から嬉しいお電話をいただきました。それは本校生徒が歩きながらゴミ拾いをしている姿に感激して、「FM おぐに」に投稿しましたとのご報告でした。本当にありがたいことです。

この通信の第14号でも本校生徒のボランティア活動についてはご紹介したことがありますが、今回の生徒もその時の活動メンバーだった男子ソフトテニス部員です。形を変え、場所を変えても、自分たちで気づき、考え、行動する姿を頼もしく思っています。

綿貫祐太郎さん・匠磨さん、素敵ですよ。これからも続けていきましょう。

※この通信のカラー版は、「小国中学校ホームページ」でご覧いただけます。